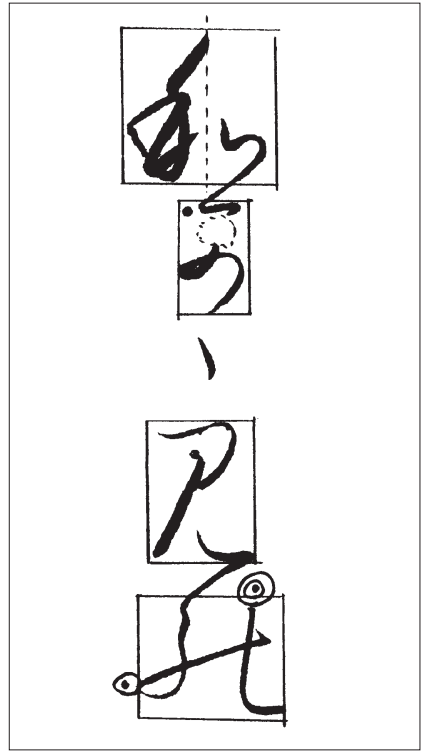


◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料420円

秋萩帖



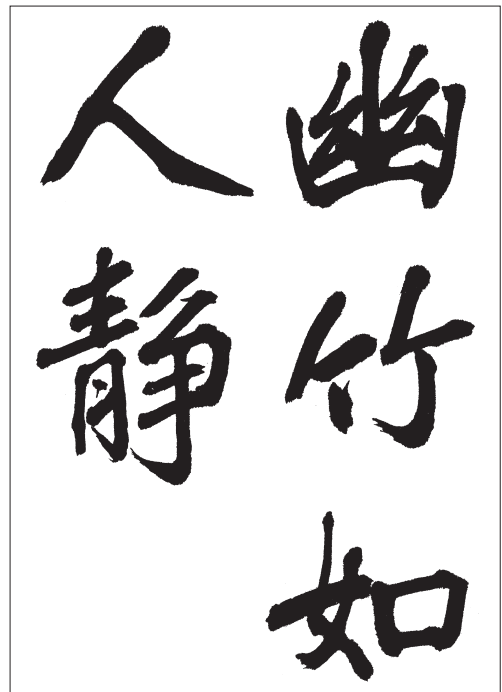
- 1、字句<sup>わかみ</sup>和可、見能書き入れる。
- 2、形式<sup>わかみ</sup>半紙をたてに使用し、中央に臨書する。落款は左余白に「○○臨」と書き入れる。
- 3、概観<sup>わかみ</sup>秋萩帖は、小野道風および藤原行成の書と伝えられています。平安時代中期の三蹟と呼ばれる能書家(小野道風・藤原佐理・藤原行成)のうち二人です。のちに『天上大風』が知られる良寛も熱心にこの秋萩帖を学んだのではないかと言われています。今回は、一字ずつを詳しく見ていくことにしました。
- 4、各字のポイント  
 和 ほぼ正方形に収める。へんとつくりの割合は半々になるようにする。筆の開閉を意識して行う。漢字の草書体を書くつもりで力強く書く。  
 可 たて長の長方形に収める。「和」からの連綿を一旦止め(・)、真横に一画目を運ぶ。そのあと空間を広くとって二画目を引く。  
 萩 短い一画の中にも強弱を意識して筆を運ぶ。次の文字「見」に向かって行く終筆の筆使いに注意する。  
 見 たて長の長方形に収め「和」と同じ位の大きさにする。鋒先を利かせて入筆し、曲がり終えたら徐々に筆圧をかけ、二画目は更に筆圧を加える。三画目の終筆と連綿の始めに筆圧を加える。  
 能 ほぼ正方形に収める。「見」からの緊張した連綿の動きのままに「能」が始まる。結びの画(◎)は筆を返す。最終画の始筆(◎)は筆を置き直す。

昇試第三部 (漢字・かな) (予告)

(九月二十二日締切)

平岡華雪先生書

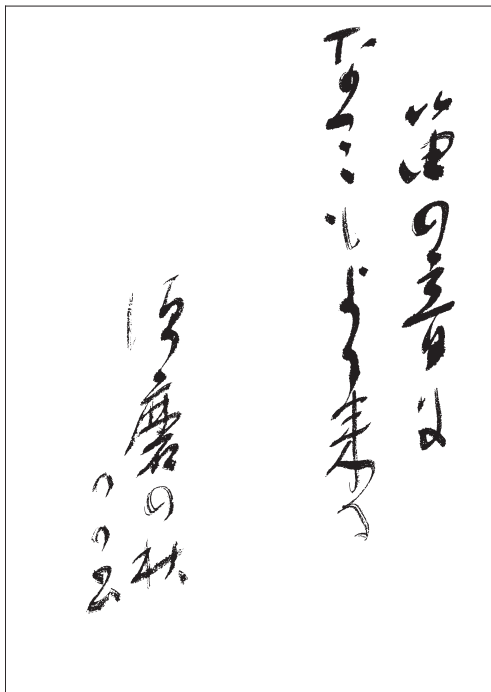
幽竹人の如く静かに(黎簡)



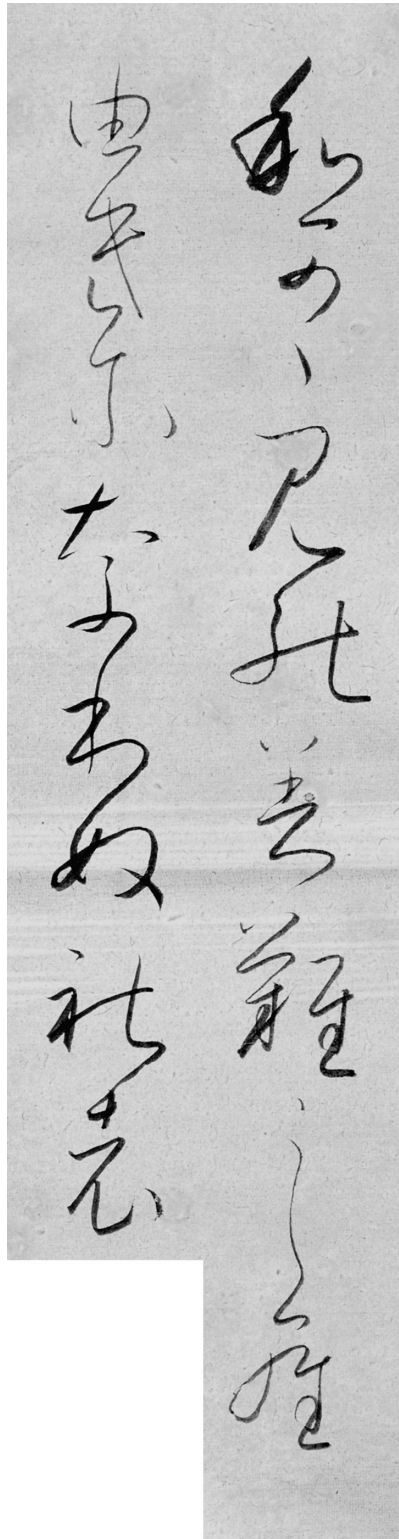
訳：幽境にある竹は人のようにものしずかである。

平岡華雪先生書

笛の音に波もより来る須磨の秋(蕪村)



秋萩帖



和可見能美難之羅由幾尔奈利奴礼者  
 わがゝみのみなしらゆきになりぬれば

今回も半切に大きく書いてみましょう。

半紙で学んでいる筆づかひの応用です。

条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。

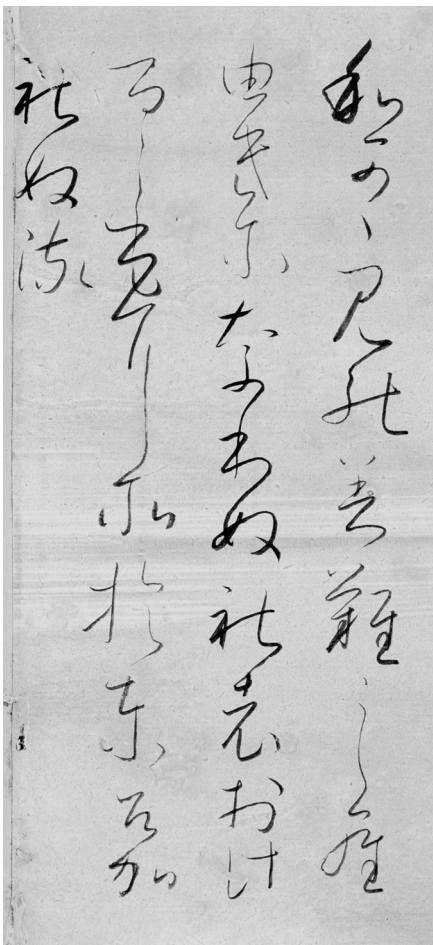
半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は左余白に「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。

▽出品料五二五円。

▽出品料五二五円。

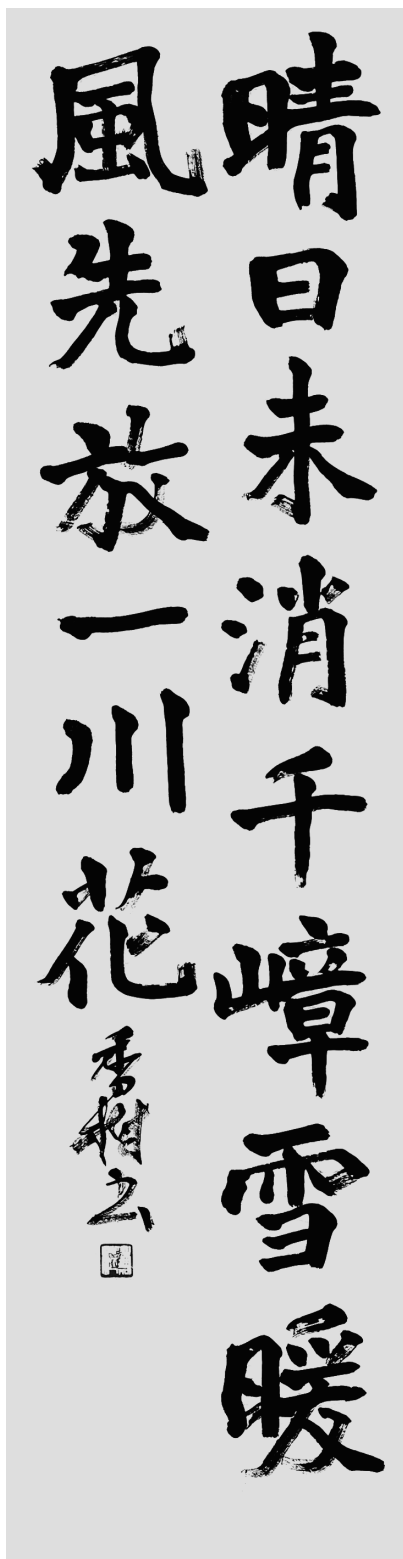


◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

A

高橋香樹主幹書

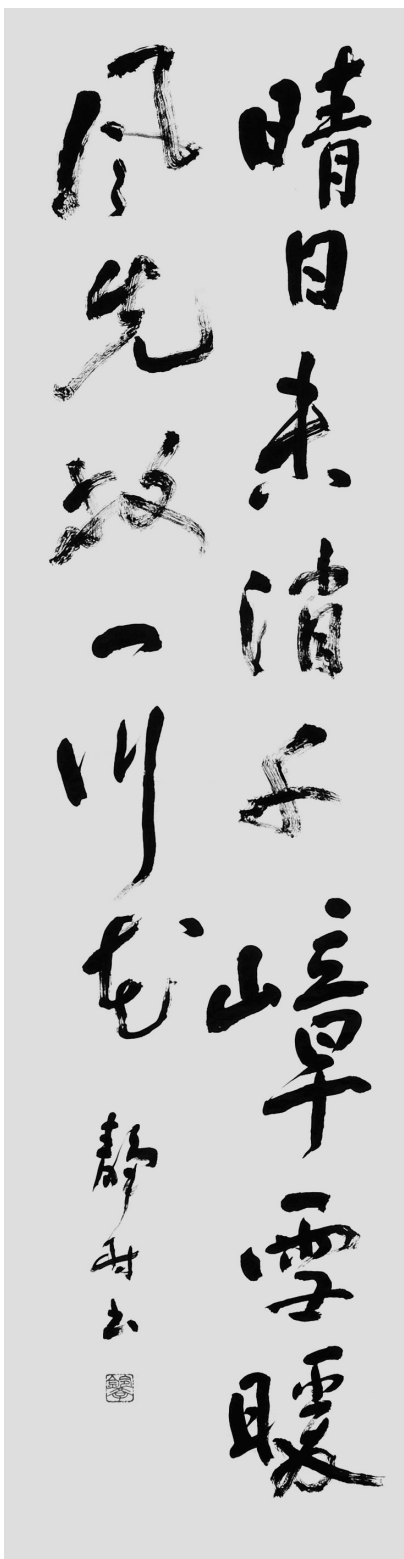
晴日未消千嶂雪 暖風先放一川花 (趙渢)  
晴日未だ消せず千嶂の雪、暖風先ず放つ一川の花



B

鈴木静村書

今回は楷書としました。今まで楷書で何回か書きましたが、みな仿書的な作でしたが、今回は自分が一番楽に書ける楷書でとの思いで書きましたが、やはり、長く臨書している鄭道昭の影響が強いのかなと思います。出品作には楷書作が少ないのが現状ですが、楷書は書の基本です。多くの出品期待します。



「晴日」以下、全作単体作。それだけに意連に留意、流れの一貫を大切に書き込まれるように。「未」書譜から拝借、私の好みの字体。「消千」渴筆線のかすれ放しは不可、かすれの中に墨の表出を。「嶂」墨継ぎ、画の接筆に注意。「雪」横画右への突きぬげ古典に多い。「放」方偏、手本が筆路不明確につき字典参照のこと。「一」墨継ぎ、以下伸びやかに「川」から「花」へ。末画点は右上空間を巧く埋めて。訳：天氣がよくても、まだ峰々の雪は消えていないが、暖かな風が吹くと、第一に兩岸の花が咲きそめた。

予告 昇試第一部漢字(九月二十二日締切)

琴書看盡猶嫌少

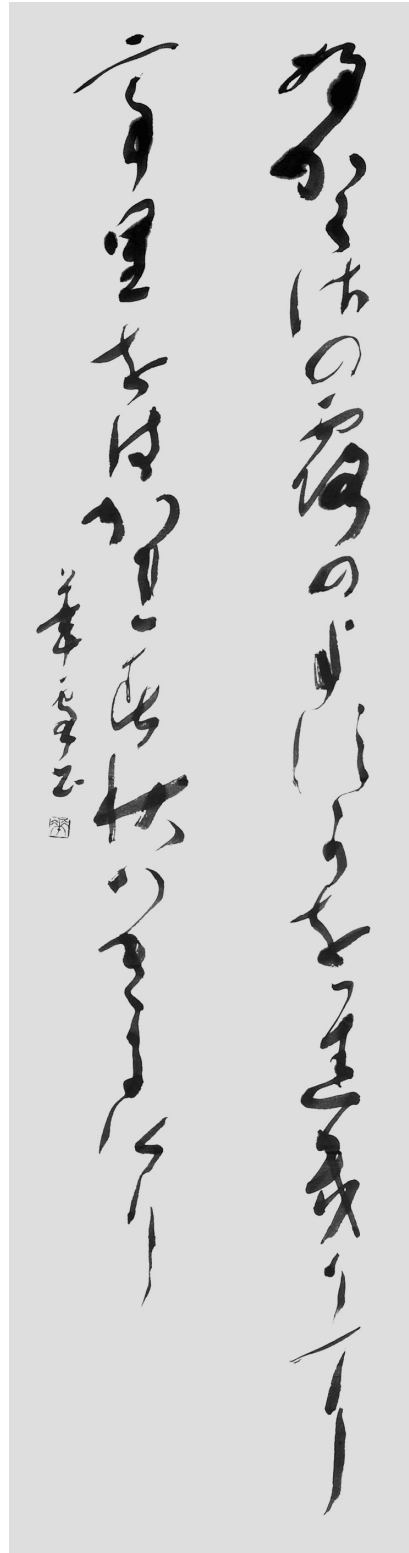
松竹栽多亦稱貧 (張司業)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

A

平岡華雪先生書

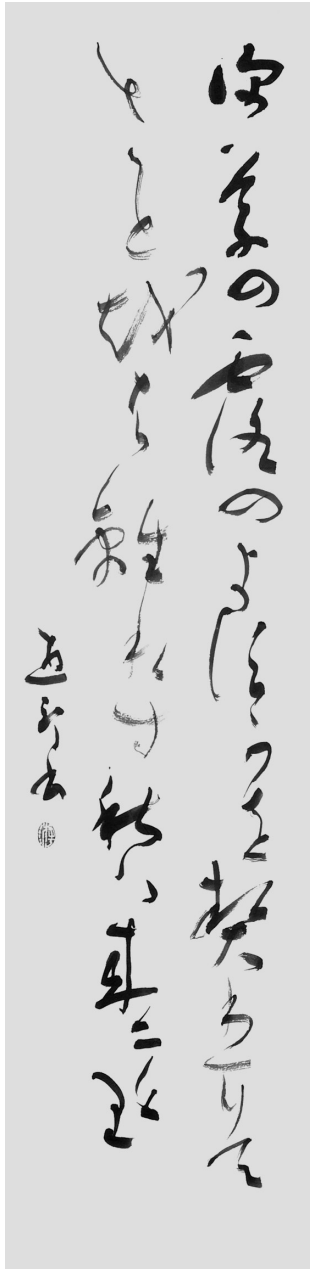
深草の露のよすがを契にて里をばかれず秋はききにけり  
 (新古今和歌集 撰政太政大臣)  
 婦か久佐の露のよ須可を遅幾り耳亭里をはか連春秋八き尔介り



B

立川遊汀先生書

深草の露のよ須可を契利耳天さと越者離れ寸秋八来二介里



歌意  
 草深い深草の里の露と  
 いうわずかで、はかない  
 よりどころを縁として、  
 この深草の里を見捨てな  
 いで、秋は来たことだ。  
 (日本文学全集「小学館」)

学び方

墨色について  
 墨色は、線質、書体、構成とともに書表現の重要な要素である。現在、潤濁という言葉で作品批評をされていることが多いが、これは非常にむずかしいことで、用紙、筆、墨量、用筆法(遅速緩急)によって微妙に変化する。特に含量量に留意したい。(各自で工夫、研究する。)

今回使用した筆―起龍4号、用紙―祥雲、加工3。初句から2行目上半まで一筆で、終句(秋は来にけり)で墨継ぎ。

予告 昇試第一部かな(九月二十二日締切)

心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな(小倉百人一首)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

条 幅 部 随 意 参 考

酒井香雨先生書

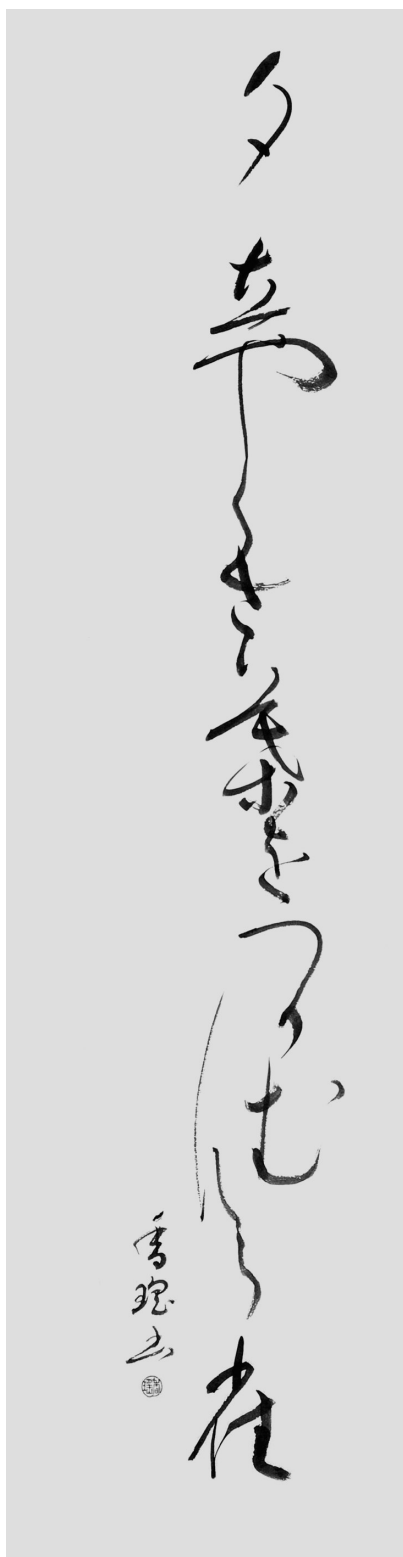
妙言無古今（張元彪）  
みょうげんここん  
 妙言古今無し。



訳：微妙なる言語に今とか古とかの区別ない、名言はいつも名言である。

内藤香瑶先生書

夕だちや草葉をつかむむら雀ゆふくさば  
 夕立やくさ葉をつかむ無すずめら雀  
 （与謝蕪村）

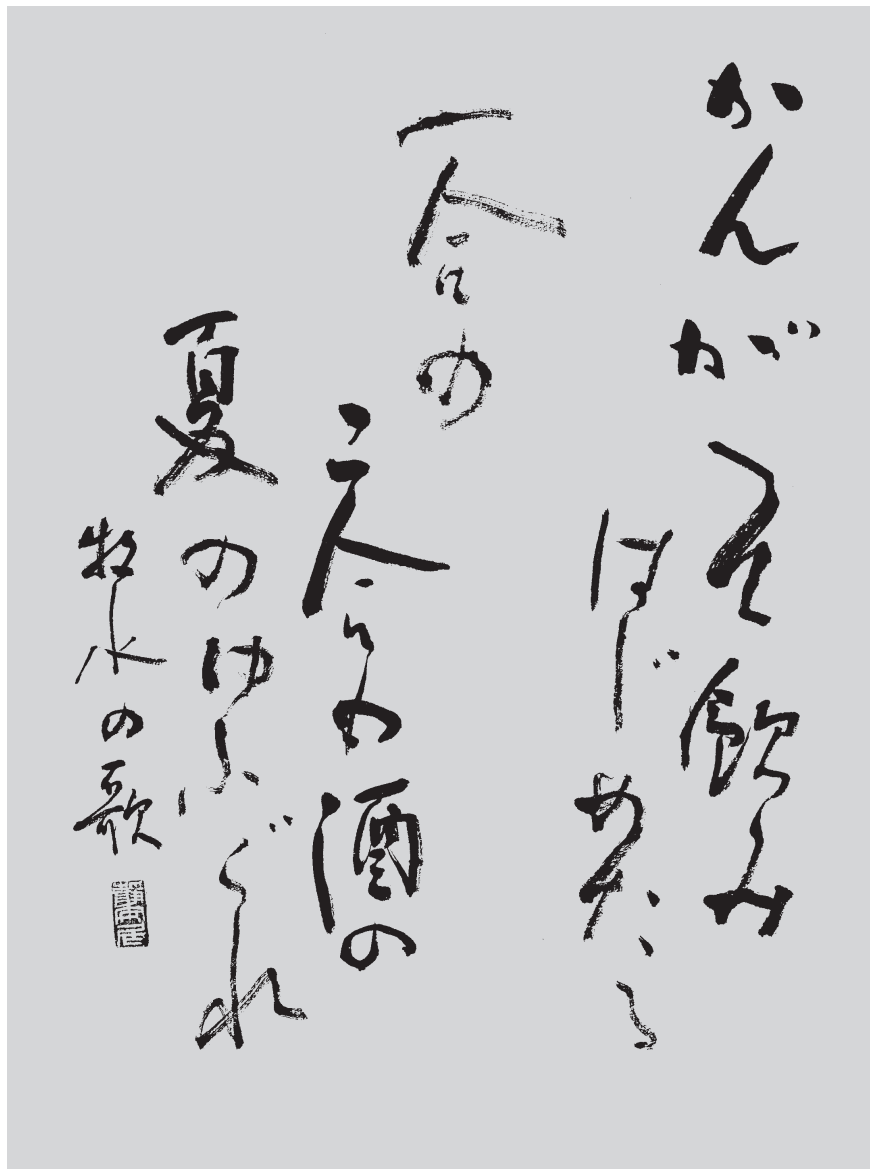


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料525円）

鈴木静村書

かんがへて飲みはじめたる一合の  
二合の酒の夏のゆふぐれ

(若山牧水)



若山牧水は飲める人であった。飲みすぎてアル中に近くなり、胃を傷めてしまった。  
この歌、飲まずにはいられない気持ちがよく出ている。初句の「かんがへて」は何であろうか。以下彼の飲まずにはいられない気持ち、心底酒好きらしい気分を味わい求めてほしい。

○墨継ぎは下の句の「一合」はつきりと打ち出したい。

○「かんがへて、はじめたる、ゆふぐれ」かなが続く部分。それぞれ線の多様化に一工夫を。

○落款は「牧水の歌」に印一顆で締める。

若山牧水

歌人。宮崎県人。  
尾上柴舟の門下。  
平易純情な浪漫的作風で、旅と酒の歌が多い。(1885～1928)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料525円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

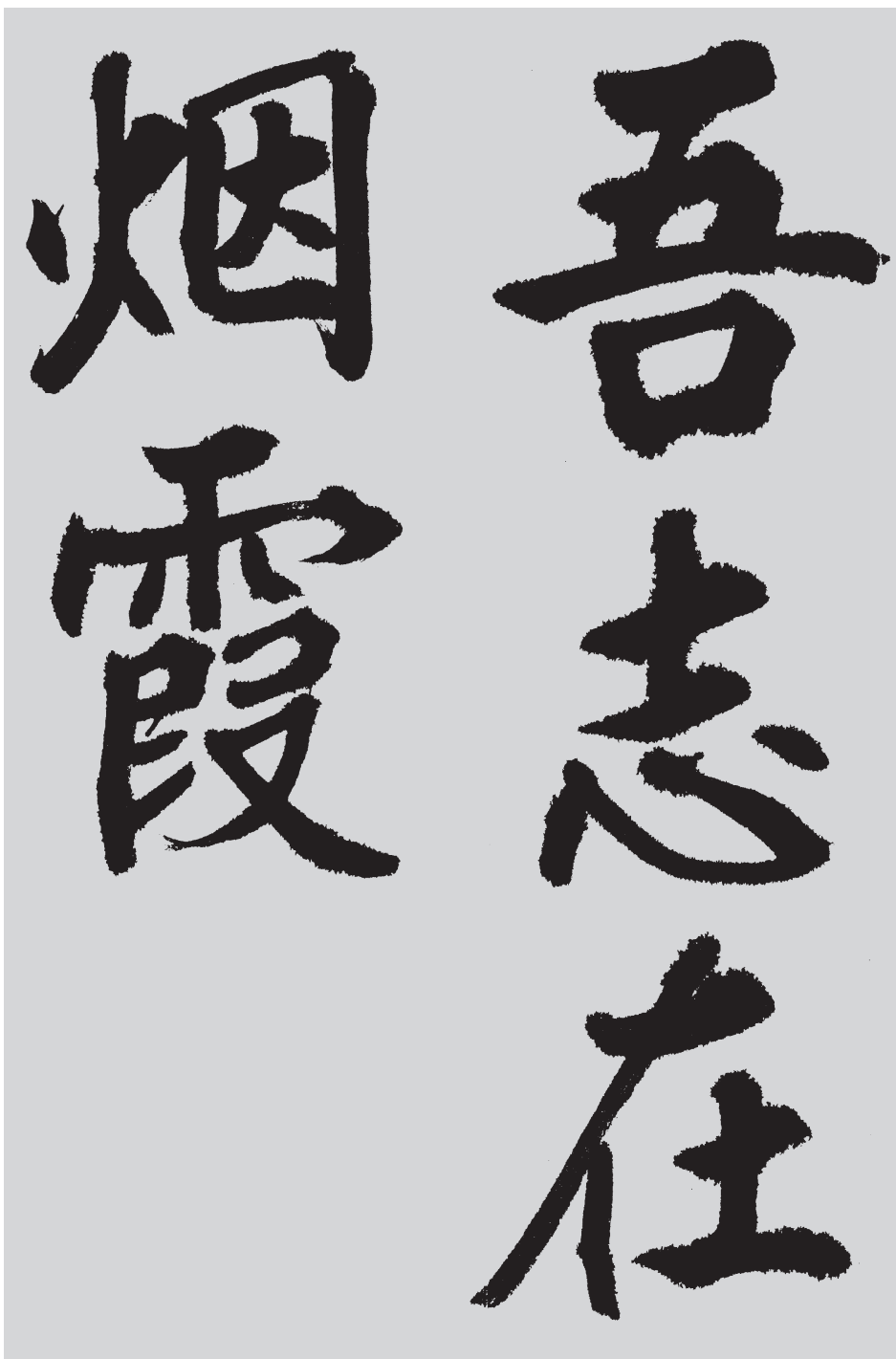
平岡華雪先生書

吾が志は煙霞に在り(陳天錫)

訳：吾が意志は山水の景色を楽しむことにある。

〈一字内の意連〉

一字の中での意連には留意のこと。常々指摘していますが、初段階では、まだ充分とはいえません。特に、「志」の「心」、「在」の二・三画、「烟」の「火」の筆のつながりには注意のこと。

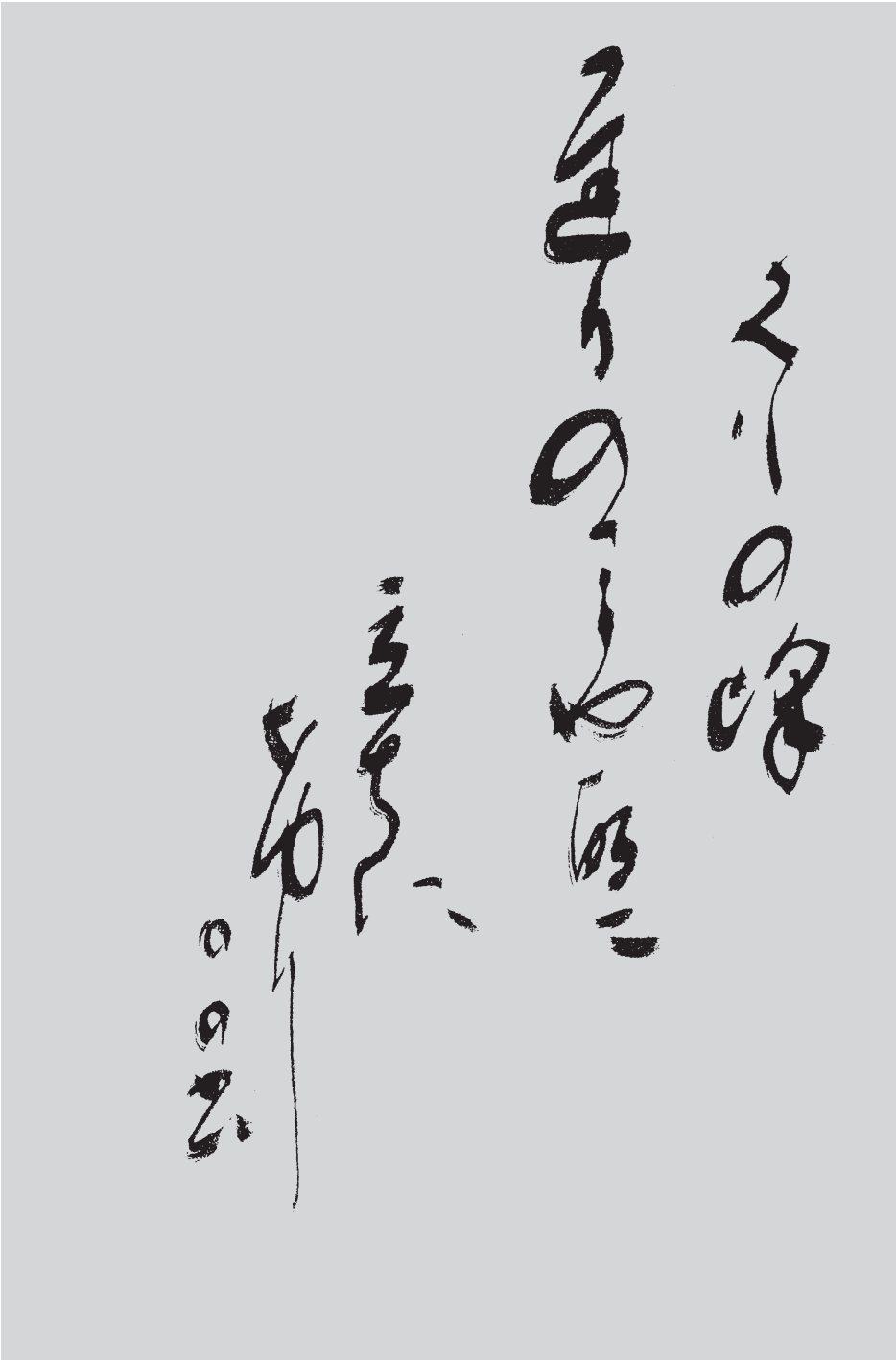


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。


①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

雲の峰塵の都に立ちにけり(虚子)  
 久もの峰遅りの三や故二立ちに希り



〈筆毛を開いてはね上げる〉

「故・希」の第一筆の用筆は「」華雪先生独特の魅力筆意で、この字の表現に大きな効果を見せています。これは、鋭くバネを利かして入り、その強さで筆毛が開き、末筆を右上空にはね上げ第二筆に入ります。「故」は鋭く細い線、「希」はズブリと筆を開いています。

希 

予告 昇試第一部かな(九月二十二日締切)

涼しさをつつみてかへるよしもがな袖師の浦の夏の夜の月(本居宣長)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

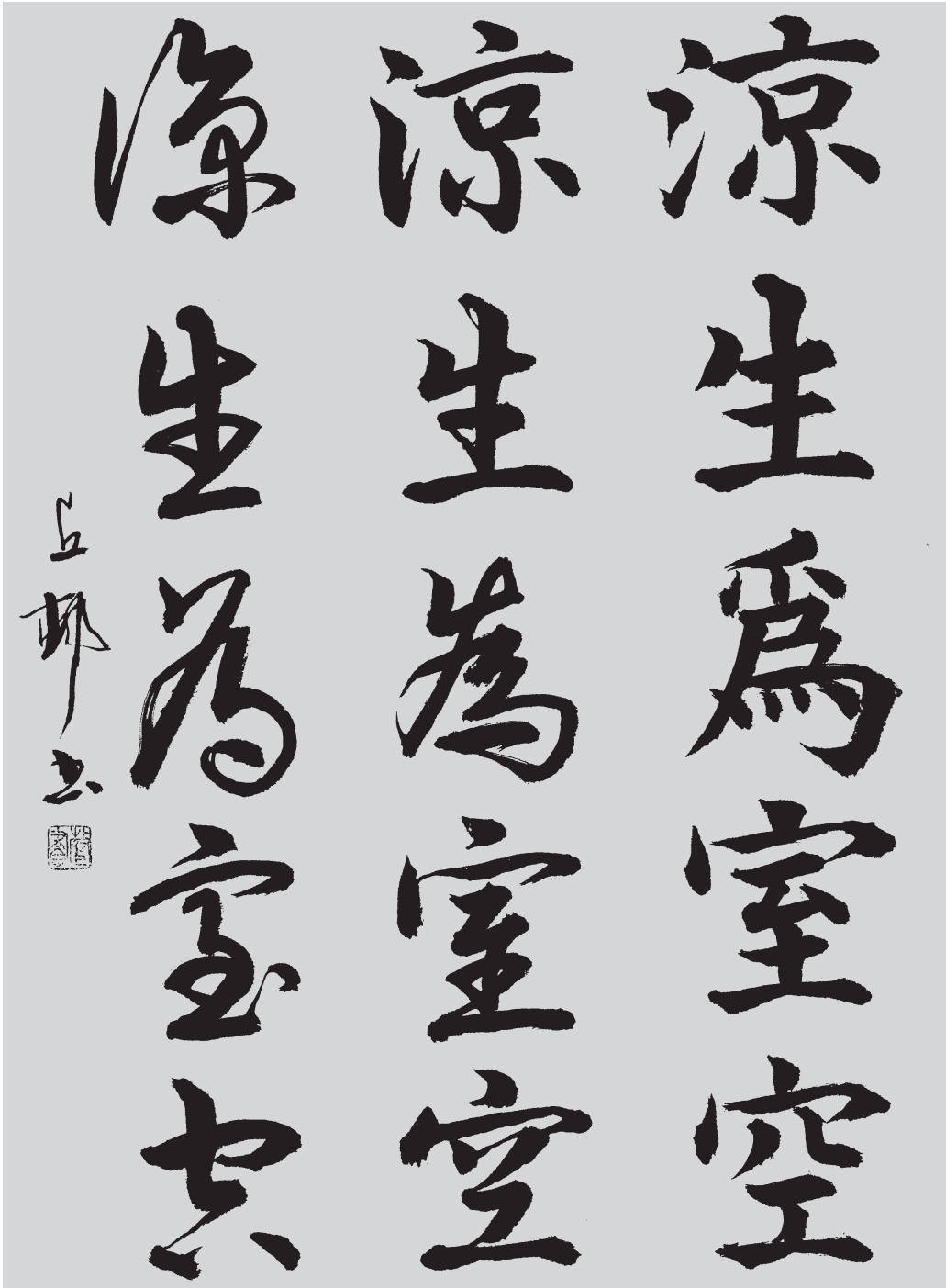
①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。



戸張丘邨先生書

涼生爲室空（白居易）  
涼は室の空しき爲に生ず。

訳：涼の生ずるは室の空なる為なり。



予告 昇試第二部漢字（九月二十二日締切）

樹影覺秋來（章孝標）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。



木簡  
敦煌漢簡  
少君足下

(天来書院)

◆随意部参考として出品してください。

随 意 部 参 考

松本汀花先生書

翠竹蒼松夏日長（虞集）  
すいちゆうそうしゆくあしがなが  
翠竹蒼松夏日長し。

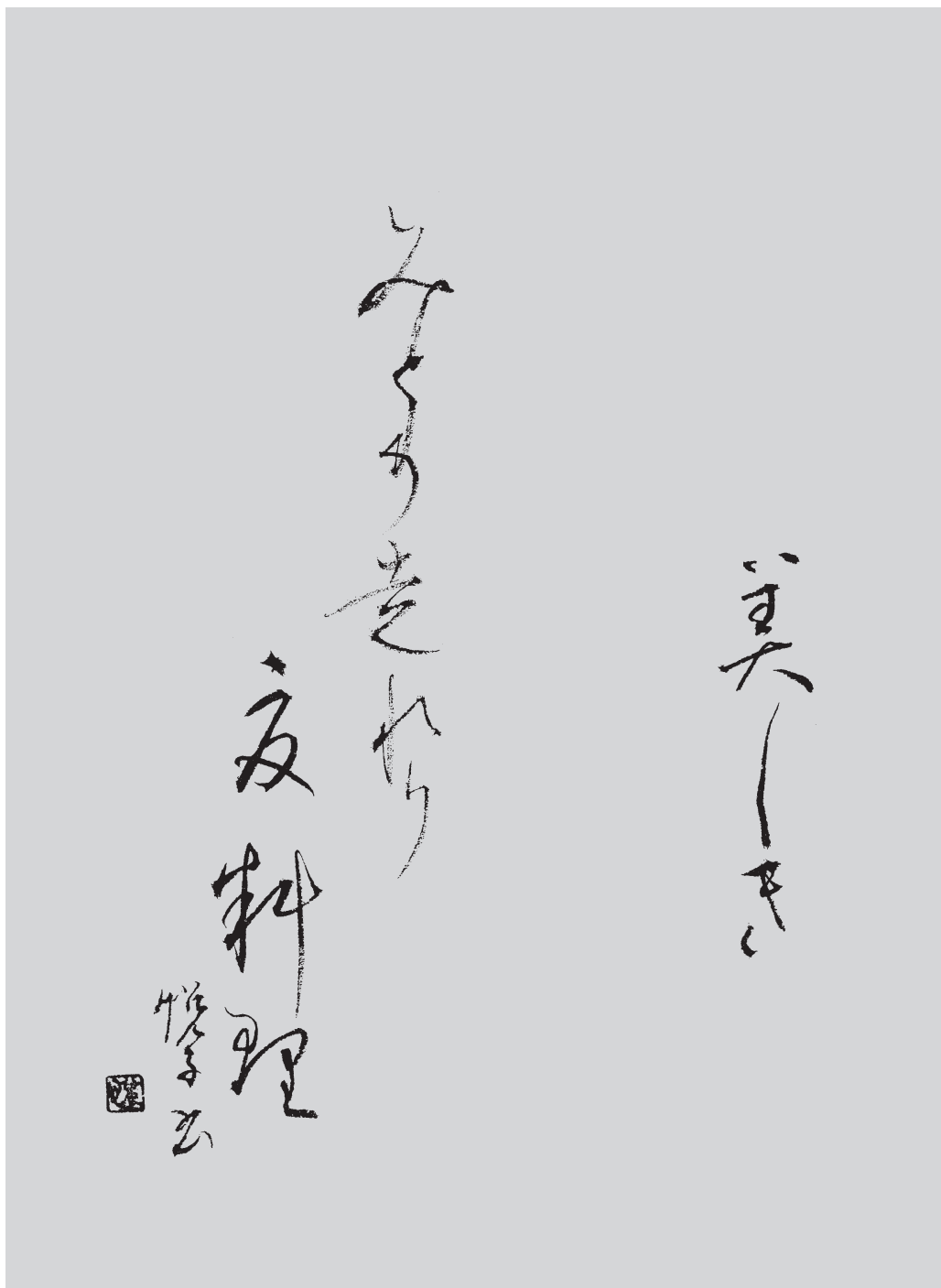


訳：環碧樓中から見た眺めである。青緑色の竹と蒼色の松があり、夏の日は長い。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円

長野悦子先生書

美<sup>うつく</sup>しき<sup>みどり</sup>緑<sup>はし</sup>走<sup>なつれうり</sup>れり夏料理  
美<sup>うつく</sup>しき<sup>みどり</sup>みと利<sup>り</sup>走<sup>なつれうり</sup>れり夏料理  
(星野立子)



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

富士山は万人の攝取に任せて、しかも  
何者にも許さない何物かをそなえて、  
永久に大きくそびえそびえている。

原の果ては空につづき、七月の  
真夏の陽光に映えて、空の青さが、群  
がり咲くキンコウカの花の黄に  
染まらうて、緑めいて見える。

課題1 (初段階以上)

原の果ては空につづき、七月の真夏の陽光に映えて、空の青さが、群がり咲くキンコウカの花の黄に染まらうて、緑めいて見える。

「花の百名山」田代山 田中澄江

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四二〇円

- (5) 会員は無料・会員外は四二〇円

課題2 (初段階以下)

富士山は万人の攝取に任せて、しかも何者にも許さない何物かをそなえて、永久に大きくそびえそびえている。

「日本百名山」富士山 深田久弥